



無縁仏さまのお墓

「^{じとうみやう}白灯明・^{ほうとうみやう}法灯明」

蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆
近藤真弘

〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番10
TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆

小林国二・高橋 潔・高橋利春
屋代 健・飯泉隆史・太田匡哉
山内芳次・近藤龍弘・近藤マリ子
近藤久美子

印刷・株式会社印刷



<https://anzenji-nagaoka.com>



https://www.instagram.com/sotozen_anzenji/

ご家族の皆さままでご覧下さい

泰忍 弘

全国放送で「明日の一番の暑さは新潟県長岡市の予想です。」などと放送されたくらい今年の夏の長岡はまさに猛暑でありました。安善寺の新たな前庭も植えた木々や植え替えた木々が毎日の水やりの甲斐なく、いくつかは枯れてしまいました。そうかと思えば今年のお盆の十三日は今まで経験したことのない一日中の雨。今までの当たり前は通用しない昨今です。コロナ禍、天候も悪く、今年のお盆のお参りは少ないかなと思っております。しかし天気予報をみて事前にお墓の掃除にいられたり、十三日も雨の中多くの方がお参りに来られたり、それぞれのご先祖様を敬う気持ちに大変ありがたいなと感じました。残念だったのは毎年多くの灯明に照

らされる無縁仏さまですが今年は雨のためロウソクが立てられず、日が暮れた後は少し寂しいようでした。来年以降はお天気に恵まれて多くの灯明が灯されることを願います。灯明といえは「お釈迦さまの教えに「^{じとうみやう}白灯明・^{ほうとうみやう}法灯明」という教えがあります。簡単に説明すると「白灯明」とは人に頼るのではなく、自らを拠り所にしなさい。「法灯明」とは法を拠り所としなさい。法とはお釈迦さまの教えのことです。我々は何かに思い悩んだ時に拠り所を探します。「拠り所」の意味を調べると「頼み」とするところ「支えてくれるもの」などの意味があります。現代社会は特に情報が多く、真偽が定かではないことも多くあります。その分選択することが難しい場面も多々あります。そんな中、最後に信じるのは自分自身であり、不安定で移ろいゆくものではなく変わることのない



本堂の灯明

い仏の教えを根拠に自分自身を信じるのが大切です。お寺では毎週坐禅会を行っています。朝の六時から七時まで坐禅堂で坐ります。ここ二ヶ月ほどその坐禅会に小学生の男子と女の子が参加しています。最初は親御さんから子供を参加させたいと連絡があり、一回限りかなと思っておりましたが、思いのほか長い期間参加しています。曹洞宗の坐禅は無所得の坐禅であり何かを求めると坐るのではありません。しかし親御さんが一つの拠り所として坐禅会に興味を持っていただいたことは大変ありがたいことだと思います。コロナ禍、雨の降る中お盆にお参りにいられた方の中には亡き人を、ご先祖様を拠り所にし、手を合わせた方も多くおられると思います。仏の教えである仏教が今後も多くの方の拠り所であり続けるため僧侶として精進してまいります。

【特集①】

春の藍綬褒章受章を賜り

この度、令和3年春の褒章において、新潟少年学院の篤志面接委員として藍綬褒章を受章させていただきました。

今年は新型コロナウイルス・デルタ株が猛威をふるっているため、残念ながら法務省での伝達式、その後、皇居

での天皇陛下への拝謁式は中止となり、赴くことはできませんでしたが、8月17日に新潟少年学院 橋本雅彦院長他2名の職員の方が当方へ赴いてくださり客殿書院において厳粛な中でも心温かな伝達式を執り行っていたことが



藍綬褒章受章の症状とメダル

東堂 翠巖 龍弘

できました。

特筆すべきは、準備をされながら「ご家族の方々、お孫さんも遊んでいたら呼んできて、立ち会ってください、お爺ちゃんのことという事には、普段、立ち会うことなどできませんからね。」と、仰ってください、外で遊んでいた孫達も普段着、汗だくの格好で、伝達式に参加、その後は、家族全員での記念写真にもおさまり、貴重な体験をさせていただきました。

昭和61年に新潟少年学院篤志面接委員・62年に同少年学院教諭師を拜命され、あつという間に35年がすぎました。

昭和24年長岡市御山町に開設以来、故・橋本禅巖老師は学院生の更生の為、坐禅・講和・お盆行事等をされておられましたそのもとの、私をはじめのうちは、ご一緒させて

頂き勉強させていただきました。その後、後を受け継がせていただくことになりました。

のちに、御老師に接した生徒で「僕が私がつと早く橋本先生にお会いしていたならば、少年学院にくることはなかっただろう。」と、言っていた生徒が多数いたと聞かされました。御老師が坐禅等が終わり会場を出られる時は多くの生徒が御老師の方を向き、感謝の意を伝えている光景を見て、力量は勿論のこと、お人柄が院生に純粋な気持ち

を持たせ、更生の道への決意を起こさせるのだと、感動したことが思い出されます。

私もこの度の栄誉を励みに、いつそう、坐禅・講和・個人面談などを通して、精進努力してまいりたいと願っております。

「篤志面接委員」

専門的知識や豊富な経験を持つ民間の篤志家であり、矯正施設に収容されている人たちに対して悩み事相談や、矯正のために面談や講話を行います



新潟少年学院 橋本院長様からの伝達式



家族もそろっての記念撮影

【特集②】

「長岡市仏教会ものがたり」

編集委員会事務局長 浄土真宗本願寺派 託念寺 鷲尾 純一



発刊 長岡市仏教会ものがたり



【大正末期 導師武田阿蘭梨（早大教授）】

坊さんによる手作り作品

長岡市仏教会をちよつと誇らしく思いました。このような活動ができていく仏教会は全国でもあまりないのかもしれない。編集委員会は12カ寺14人の僧侶から構成されました。発端は安善寺近藤龍弘さんが会長の際に、春日浩三さん（西楽寺）の発した「長岡市仏教会の歴史を今残しておかなくては、長年の先人たちの苦勞や輝かしい功績も埋もれてしまう」という危機感でした。そして今、坊さんによる手作り冊子ができました。

資料発見のよろこび

長岡市花まつりが大正時代に始まったことは事実でしたが、具体的な資料が乏しい状況でした。新聞記事を丹念に探すのが近道と言われ、中央図書館に行つて新潟日報のマイクロフィルムを探索しました。5月8日をおくれば花まつりと見当をつけて探し始めました。昭和4年5月9日付けの記事「全市をあげ盛大な花まつり」を近藤真弘さんが見つ付けてくださったのです。が、不思議な出会いでした。何かに吸い寄せられるように

この記事が見つかったのです。本書口絵には特に貴重な写真を選んで載せてあります。そのトップが右の写真です。写真が見つかったエピソードを紹介いたします。長岡市仏教会機関誌「ぼだい樹2号」（平成3年発行）に「私の家の古いアルバムに第1回花まつりのものと思われる写真がある」と短い記事が載っていました。執筆者が記されています。編集委員会で執筆者の心当たりを尋ねましたが、わかりません。しばらくして、お檀家さんが保管されている古いアルバムや資料をいただいた

きに、西願寺様をお訪ねしました。帰り際に前住様（上原仁さん）が、うちにも古いアルバムがあるんだけど見せてくださいました。なんとその中に探し求めていたこの写真がありました。

それとほとんど時を同じくして、近藤真弘さんから興奮のお電話が入りました。「すぐい本が見つかったのです。すぐにお持ちします」と。昭和17年に出版された「留影鏡」です。この本を見つけたのは石田哲彌さん（昌興寺）でした。私たちのために書き残されたような内容が詰まっていた。すこしずつ戦前の様子が見えてきて編集委員会でワクワク感を共有していました。

仏教会目線の長岡復興史

戦争の愚かさを示す1枚の写真がこれです。戦局が厳しくなり寺の梵鐘や仏具が供出されることになりました。集められた夥しい仏具の前で読経が勤められています。どこのご寺院かわかりません。長岡空襲によつてこの寺院もま

た燃えてしまいました。

安善寺様からご提供いただいたこの写真は、戦災から10年を経た賑わいの花まつりです。やつとここまで復興した人々の喜びが伝わってきます。まさに全市あげての花まつり行事でした。

本書に掲載された写真には先人のお顔がたくさん写っています。きつと懐かしく振り返つていただけると思います。



昭和20年～30年代 花まつり 群集



仏具供出の読教

【越後曹洞宗名刹巡り】

日本有数の豪雪地帯に佇む
奥信越の名刹

津南町 龍源寺

〒九九八三二 中魚沼郡津南町大字中深見2-1-1 八番地
<https://shinkenzan.com>



本堂

日本有数の豪雪地帯津南町を流れる一級河川中津川。その傍らに伽藍を構える深見山龍源寺は、一五八二年（一説に一五八七年）開創の古刹です。御開山は上越市にある名刹顕聖寺十世の日山建慧和尚であり、時は天正年間、安土桃山時代に当たり、この後は上杉謙信公亡き後、上杉景勝公が治めていた時代となります。

本寺顕聖寺の開創は一四六七年、かの応仁の乱が始まった年ですが、御開山快庵妙慶大和尚は雨月物語「青頭巾」にて証道歌の句をもって鬼と成り果てた僧侶を成仏させた逸話でも有名なお方です。龍源寺開基檀徒に伝わる口伝によりますと、龍源寺の御開山様

も青紫の頭巾を着用してこの地を訪ねてきたという伝承がございます。

龍源寺の歴史の中で特筆すべきは一八五六年（安政三年）から一八七〇年（明治三年）までの期間に龍源寺で高橋赤山先生によって始められた赤山義塾であります。

赤山義塾は当時の妻有地方を代表する学舎であり近代日本の発展に貢献した逸材が多数輩出されました。

また、近代曹洞宗に多大な貢献と影響力のあった明治時代を代表する禅僧であり、宗門の名刹大雄山最乗寺四世の星見天海老師と龍源寺は深い関係にありました。

龍源寺ホームページに星見老師の詳細が記されています。



<https://shinkenzan.com>



<https://www.instagram.com/shinkenzan1582/>

す。霊場としては妻有百三十三番霊場の第四十八番に指定されています。最近ではインスタグラムで、何気ない日常の風景や、自然の四季折々の風景、お寺の出来事などをほぼ毎日発信しており、見応えがあります。



本堂 内部



雪の鐘楼



新型コロナウイルスが終息したら行きたい旅

新潟ビーエス観光 飯泉 隆史

オリンピックも無事に終わり、コロナワクチンも普及し、世の中は落ち着きを見せ、経済が活性化し、そうだ！旅行に出かけよう！なんて思いも空想と化してしまいました。連日テレビではコロナの猛威しか放送されません。しかしいつかコロナは終息します。その時は是非皆様で旅行に行きましょう。そのための準備として今まで私が体験し、そして感じた観光地を案内させて頂きたいと思います。

早速ですが、観光でお寺と聞くと京都というイメージが大変強いと思います。確かに有名でさらに本山と呼ばれるお寺は京都に多いですが、歴史のあるお寺は圧倒的に奈良なのです。日本で最初に創建されたといわれる飛鳥寺や聖徳太子ゆかりの法隆寺などがあります。私のお勧めは信貴山 朝護孫子寺です。大和十三佛のお寺で宿坊がありま

す。奈良の旅行ではよくお世話になりました。広大な敷地を持ち、お堂も沢山あります。夜はライトアップされるので境内を散策することができます。本堂の脇からは奈良の夜景を望むことができます。境内の中に大きな張り子の虎があり、これは聖徳太子がこの山を訪れた際、祈願をするや、天空遙かに毘沙門天王が出現され、必勝の秘法を授かり、その日は奇しくも寅年、寅日、寅の刻でありましたので、虎に縁のあるお寺として信仰されてきました。夜はライトアップされていて散策が楽しめます。本堂からは奈良市の夜景を楽しむこともできます。

早朝本堂にて朝のお勤めがあります。その前に浴油堂にて護摩祈禱を行います。お堂は大きいものではありませんが、その中で護摩を焚き、火を使う祈禱はとても迫力があ

ります。火の勢いは凄まじく、天井に届きそうになります。お堂の中は煙でいっぱいになり、とても御利益があるように感じます。宿坊に泊まらなければ体験できないとてもありがたいものです。

言うまでもなく旅行は自身で行って、見て・食べて・体験するものです。ネットの中では味わえない非日常の世界、そして人と人との繋がりを得られるのも旅行本来の楽しみです。日本の観光産業が早く復活することを祈らずにはいられません。

■旅のご相談・お申し込みは
新潟ビーエス観光まで
TEL 0258-3414848



信貴山 朝護孫子寺

安善寺 よろず掲示板

「大本山總持寺にお米を送る運動」のご案内

例年ご案内させていただいておきます大本山總持寺にお米を送る運動ですが、本年より私が実行委員長を拝命いたしました。

そんな中、本年も例年同様

に実施させていただきました。

この運動も平成25年に始まり今年で9年目となりました。昨年もお陰様で多くの新潟米を本山にお届けすることが出来ました。

本年もご協力いただける方は左記の内容にて11月中旬ころまでにお寺にお米をお持ちいただくか、ご連絡をいただければ取りに伺います。

仏道修行に励む修行僧のために何卒ご協力の程お願い申し上げます。

記

- 令和2年度産の古米玄米。
- 10キロ以上で米袋にお名前を記入。

団体参拝旅行について

前号ご案内いたしました安善寺団体参拝旅行でございますが、昨今の急激なコロナ感染者増加に伴い、県外での旅行は断念することいたしました。

代わりに時期を変えて県内での開催を検討しておりますが、状況によっては本年も中止いたします。

今回企画しておりました奈良の旅は大変反響もあり、来年以降是非開催を致します。





子供はいろいろな人と出会って 学んでほしいニヤーン



今日は元気のいい声が聞こえない。夏休みが終わったようだ。境内の蝉たちも少し静かになり、秋の準備が始まっている。

今年の夏、子供達は色々な経験をしたようだ。真人君は学校行事で立山登山をした。大きなザックを背負う姿を見ると大きくなったなあと感じ深い。

悠真君はサツカーの合宿に参加し、いい色になって帰ってきた。毎日元気いっぱい遊ぶ二人を見ていると老猫の私も駆け出したくなる。楽しい日々はあつという間に過ぎ去るもので、遊びすぎた二人に待っていたのは山のような宿題と自由研究。子供達の自由研究



老猫になった今では、昔の交流が懐かしい

なのだが、なぜか毎年久美さんが悩まされている。

私はというと毎日クーラーのきいた部屋でゴロゴロしてばかり。たまには動かかねばと思いい、ハムスターたちのカタカタとなる回し車を横目に、手を出したくなる気持ちをぐつと我慢して廊下に出る。

ブオンと聞き慣れない音に驚く。そこには黒光りする生き物が；真人君の友達から幼虫をいただき、成虫にまで育てたカプトムシと、キャンプ場でクワガタ博士（子供達が勝手に名付けた）に出会い、色々教わり採集したクワガタ達。キャンプ場では川遊びやクワガタ採集も楽しんだらしいが、施設内で働

いている方々と仲良くなつていろいろな話をしたことや、クワガタ博士に出会えたことのほうがうれしいよ
うだ。
子供達はお寺と
いう、様々な方が
出入りする環境に

お便り原稿用紙

皆様からの原稿をお待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問（編集部や住職がお答えします）など。

FAX 0258-32-2870
 〈原稿送付先〉 メール info@anzenji-nagaoka.com
 HP にも申込フォームがあります

編集 雑感

例年の長岡花火もな
く迎えた2回目の8月
ですが、安善寺前の一
方通行の通りに走り回る子どもたちよりも車の数が多くなったのを見て今年もお盆が来たことを実感しました。安善寺の前を通るたびに紫色の垂れ幕が下がりいつも以上に凜としたたたずまいの本堂を拝見し気持ち洗われるようでした。朝に夕にお墓参りに訪れる檀家さんたちを見てみると、自然と先祖を大切にしている気が持ちのありがたさを感じます。

子どものころのお盆は久しぶりに会う親戚に遊んでもらえることが楽しみでしたが、大人になった今は先祖とのつながりを子どもたちに伝え家族で感謝することのできる日となりました。

今回の季刊誌は東堂様の藍綬褒章受章の大変おめでとう報告と、飯泉さんによる新企画の旅行のコラムがあり前向きな内容をお伝えすることができたのではないかと願っております。編集会議で世間はまだまだコロナ禍での自粛が続いているけれども何か明るい話題を提供できないかと話し合い企画いたしました。

待ちにするなど前向きに時間を過ごすように努めていると思います。そうはいつても人と会う機会が減ってしまうと元気な人でも気持ち落ち込みやすくなります。そんな時はぜひ『笑う』ことを意識してください。普段から心も体も疲れている時に私は好きな落語を聞くなどして笑う時間を作るよう心がけています。

テレビでもラジオでも、家族や友人との会話や電話でもいいと思います。笑うと表情も柔らかくなり心もほぐれ暖かい気持ちになります。最近笑っていないと思ったりせひ口角を大きく広げて声を出して笑って、疲れも悩みも吹き飛ばしてください。

ラジオでしたら平日13時からやっているBSNラジオの『四畳半スタジオ』がおすすです。出演者がずつと笑っているのだから笑ってしまいますよ。最近のラジオはスマホの無料アプリ（radio）を使えば聞き逃し放送もできて好きな時間に聞けるので便利です。

季刊誌の編集委員会に参加させていたいただいて3回目になりますがまだ寝返りすらできず他の委員の先輩方を見ながら勉強中です。早くつかまり立ちぐらいは自分でできるように成長したいと思えます。

(天田 匡哉)

第九十六号、新年号は令和四年一月一日(土)発刊予定です